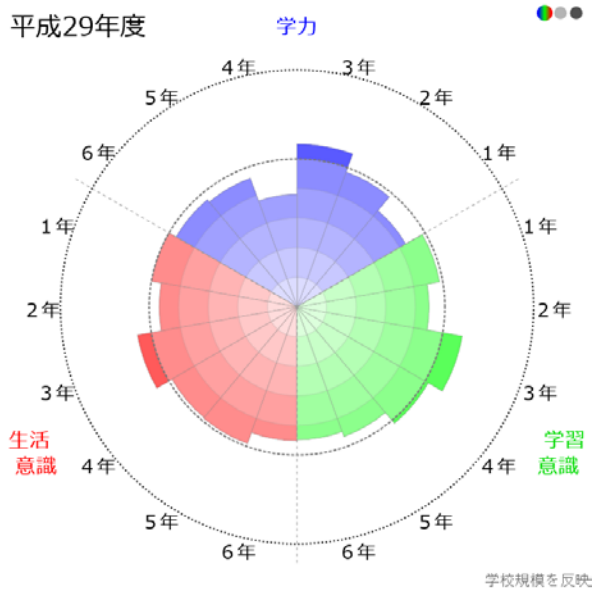


各種調査から見た児童の状況

平成30年2月実施 横浜市学力・学習調査より



〈 概要 〉

真ん中の黒い円が横浜市の平均を表しています。

学力は、横浜市の平均よりやや低い状況と言えます。

生活意識は、学年により若干の差がありますが、概ね、横浜市の平均程度です。

学習意識は、学年によってばらつきがあります。

生活意識や学習意識の高い学年は、学力も高いことが分かります。

〈 学力、学習意識について 〉

国語科では、「読む力」「書く力」は、市の平均程度ですが、「話す・聞く力」「知識・理解・技能」といわれる漢字や言葉のきまりについては課題が見られました。「国語の勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は、72%でした。言語活動を充実させ、児童が相手意識目的意識を明確にもち、主体的に学ぶ授業を目指すとともに、文字や言葉のきまりを身に付けることができる機会を設定していきます。

社会科では、学年によって差がありますが、「知識・理解」「思考・判断・表現」において、市の平均を上回りました。「技能」においては、市の平均と同程度でした。「社会の勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は、80%でした。社会的な事象と関わる体験を大切にする学習活動を今後も続けていきます。

算数科では、計算などの「技能」は、市の平均を上回っていました。「知識・理解」「数学的な考え方」では、市の平均を下回る学年が多く課題が見られました。「算数の勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は79%でした。今後も計算練習を大切にするとともに、既習事項を使って自力で解法を考えることのできる支援を工夫していきます。

理科では、「知識・理解」については、市の平均程度でした。「思考・表現」「技能」については、市の平均を大きく上回る学年がありますが、かなり下回る学年もあり、課題が見られました。「理科の勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は、86%でした。また、92%の児童が「観察や実験が好き。」と答えています。児童の興味・関心を基に試したり考えたりする過程を大切にした学習を計画していきます。

〈 生活意識について 〉

基本的な生活では、「朝食を毎日食べますか。」については、「必ず食べる。」「大体食べる。」児童が96%でした。また、9時間以上寝ている児童が、市の平均では、45%であるのに対し、本校の平均では、56%でした。よい状況であると考えられます。「1日に携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットやメールをどのくらいしていますか。」については「していない、持っていない」児童が38%、「30分より少ない」が26%、「30分以上1時間以内」が10%、「1時間以上」が26%でした。市の平均と同じくらいです。携帯電話やスマートフォンを介してのトラブルの事例を合わせて考えると、持つ前によい利用の仕方についての理解が必要です。「家でどのくらい勉強していますか。」では、45分以上勉強している児童の割合が、市の平均が53%であるのに対し、本校では、42%となっています。「自分には、よいところがある。」と答えた児童の割合は、市の平均が80%であるのに対し、本校の児童の割合は83%でした。この自己肯定感を大切にしていきます。

平成30年4月実施 全国学力・学習調査より (第6学年、国語科、算数科のみ実施)

〈 国語 〉

A問題 (常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能)

領 域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化等	全体
名瀬小	90.7	78.9	79.9	65.7	71
県	91.0	74.3	74.5	66.1	70
全 国	90.8	73.8	74.0	67.0	70.7

B問題 (知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力など)

名瀬小	68.7	42.7	40.2	対象問題数0	53
県	65.0	44.2	48.8	対象問題数0	54
全 国	64.6	45.6	50.8	対象問題数0	54.7

〈 算数 〉

A問題 (常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能)

領 域	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体
名瀬小	63.1	70.6	56.7	57.3	62
県	63.1	71.7	57.1	61.0	64
全 国	62.3	72.7	56.9	60.1	63.5

B問題 (知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力など)

名瀬小	53.3	48.5	60.3	42.1	48
県	58.2	52.6	60.1	45.7	52
全 国	58.4	52.4	59.9	45.1	51.5

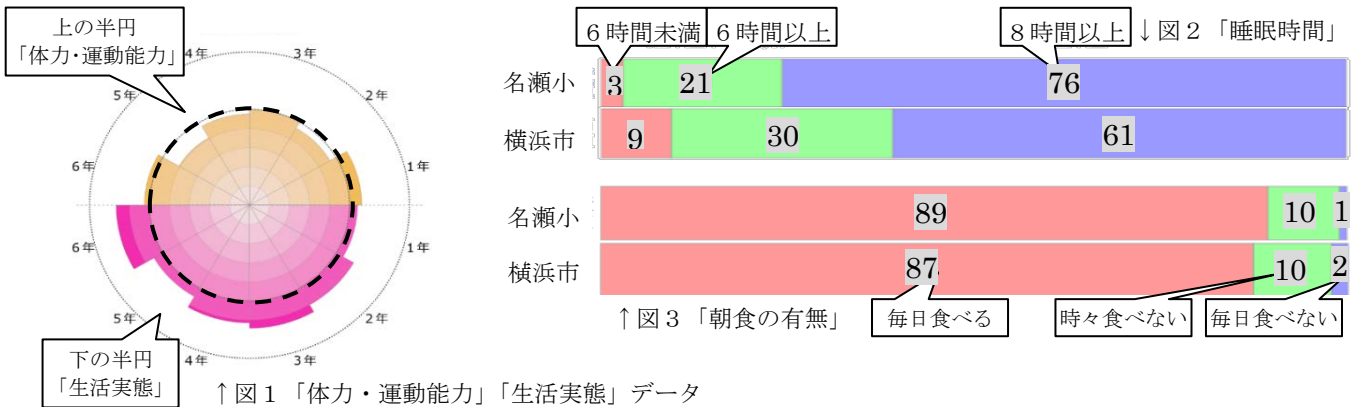
〈 理科 〉

	関心意欲態度	思考・表現	技能	知識・理解	全体
名瀬小	93.8	53.9	66.0	77.3	60
県	82.8	54.1	70.7	76.4	60
全 国	82.1	54.1	71.1	81.5	60.3

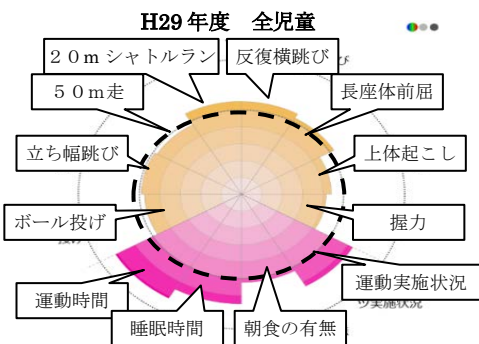
平成29年度 体力・運動能力調査より

〈 名瀬小学校児童の体育・健康面について 〉

○名瀬小学校の児童は生活実態の数値がどの学年においても市平均（点線内円）より上回っています（図1）。また、睡眠時間が十分にとられており（図2）、朝食もしっかりと取っている（図3）ことから、基本的な生活習慣が整っている児童が多いことがうかがえます。



○毎日、体を動かす児童が増えてきています（図4）。休み時間、約7割の児童が校庭に出て、体を動かし、ドッジボールだけでなく、おにごっこ・鉄棒・一輪車・竹馬・遊具遊びなど、様々な運動を行っています。



○新体力テストの結果では、大体において市平均と同じぐらいの数値です。しかし、その中でも「20mシャトルラン」「反復横跳び」「長座体前屈」の3つが市平均を上回っています。一校一実践の取組（なわ跳びタイム・体づくりタイム）の成果であると考察できます。

○「上体起こし」「握力」「ボール投げ」といった体づくり運動の中の「力強さ」に当たる部分の数値は低い状況です。高学年の体力を高める運動における「力強さ」における授業改善を図っていく必要があります。

〈 今後の指導について 〉

【体育学習での取組】

- 様々な運動領域や種目に触れ、運動との出会いや運動経験を増やすことができますようにします。
- 運動の特性を生かした授業づくりを行い、子どもが運動の楽しさや喜びを感じ取れるようにします。
- 心や体に関する健康課題に気付き、健康の大切さを実感できるようにします。
- 新体力テストの結果をレーダーチャート化し、自分の体力について知り、体力を高めていこうとする態度を育てます。

【他の教科などでの取組】

- 様々な運動領域や種目に触れ、運動との出会いや運動経験を増やすことができますようにします。
- 道徳科では、自他の生命の尊重を育てます。
- 保健委員会では、学校内における健康・安全について考える取組を通して、事故やけがの未然防止、病気の予防を図ろうとする態度を育てます。
- いろいろな教科と食育の関連を図り、月に一度、食に関する指導を行ったり、栄養教諭と連携しながら食育に関する授業を行ったりすることで、子どもたちの生活習慣や食習慣のさらなる改善を図ります。
- 「なわとびタイム」「体づくりタイム」を通して、子どもの運動への意欲と運動にかかわろうとする態度を育て、体力の向上、運動の習慣化を図ります。